

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換終了報告書

所属(本学)	大学院理工学研究科土木工学専攻		
現在の学年	修士2年		
留学先国	スウェーデン	留学先大学	シャルマーズ工科大学
留学期間	2013年8月17日～2014年7月1日		

① 留学先大学の概略

2013年8月から2014年6月までの約10ヶ月間、授業料等不徴収協定に基づく派遣交換留学制度を用いてスウェーデンのヨーテボリにあるシャルマーズ工科大学へ留学しました。ヨーテボリはスウェーデンで二番目に大きい都市で、北海に面しています。とはいっても小さな街で人口は40万人ほど、少し歩くと写真のような湖や森を散策できます。私の所属していた土木工学専攻を含む多くの学科は街の中心に近いJohannebergに位置していました。ヨーテボリの中心を流れる川を隔てたLindholmenに情報系専攻のキャンパスがありました。



大学正門



ヨーテボリ郊外にある湖

② 留学前の準備

私は修士1年夏から一年間留学し、在学期間を一年延長することに決めました。留学期間を一年にした理由は、できる限り長いあいだ海外にいてゆっくりと自分のペースで学んでいき、また就職活動や修士論文研究も余裕を持って行えると考えたからです。

留学に合わせて、TOEFL iBTの勉強を始め、2回ほど受験しました。TOEFL iBTはListeningやReadingだけでなく、SpeakingやWritingを含むので十分な対策が必要です。TOEFLなどで東工大の留学の条件を満たすと、東工大を通じて現地の大学に応募できます。応募し、向こうの大学から受け入れ許可が来た修士1年の4月末から、向こうの斡旋により寮を決めました。その後スウェーデン大使館に申請して、6月頃現地滞在許可証を取得しました。

③ 留学中の勉学・研究

シャルマーズ工科大学はクォーター制を採用しており、9月から12月で秋学期(2学期)、1月から5月で春学期(2学期)でした。講義が多い授業、演習が多い授業など様々でしたが、どのような授業でも大抵大きな課題があり、それを2-3人のグループで行っていく、というものでした。

グループワークでは周りが非常に流暢に英語を喋るため、始めはついていくのに必死で意見を言うのすらままならない状況でした。しかし、欧米の人は意見を言わない人というのをあまり好みません。最初は間違った英語でもいいので、自分の意見はきちんと言おうと頑張ったところ、少しずつグループワークに参加していくことが出来ました。

全体的にヨーロッパ諸国からの交換留学生が多く、次に中東、アメリカ、カリブ諸国、アフリカが並び、アジア人はクラスに1人か2人でした。たまに授業でスウェーデン語の資料が配られて困ることもありましたが、周りのスウェーデン人の友人達に助けられました。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

シャルマーズ工科大学大学院は半数が留学生のため、新学期が始まってからの一ヶ月間は

CIRC という団体が留学生を対象に様々なイベントを実施してくれます。始めは入学オリエンテーションで番号くじを引き、同じ番号を引いた様々な国から来た留学生 9~10 人と一緒に学校見学やパーティにいきます。私はそこで出会った友達とその後も一緒にいることが多く、学内にあるボルダリング施設で運動したり、一緒に旅行へ行きました。また、一人が自国の料理を作り友人を招待し、それをローテーションしていくというインターナショナルディナーを開催しました。友人と交流を深めただけでなく、友人のバックグラウンドについても知ることができ、良い思い出となりました。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

私は留学生や現地の友人だけでなく、海外にいる日本人とも親しくなりました。海外にいる日本人はとてもアクティブな人が多く、行動力や研究に対する姿勢はもちろんのこと、海外における日本人のあり方もお手本になります。そして研究者の友人だけでなく、プロのバイオリン奏者、ダンサー、オルガン建造者の方など、職種もバラエティに富んでおり、そのような方々と交流することは楽しいだけでなく、人生においてとても良い勉強になりました。折角留学したのだから日本人と日本語で話すのはもったいないとはよくいいますが、私にとってヨーテボリで出会った日本人の友人達は留学で得た大きな財産の一つです。

私が留学を経て変わったと思うのは、他国の人々に対する接し方です。私は留学する以前は、他国の人を無意識のうちどこか別の世界の人だと、一線引いていたように思います。しかし一緒に遊びにいったり、深く話したりしたことを通じて、人種や文化こそ違えど、基本は同じであることを実感しました。もちろん生きてきた環境によって価値観は変わりますが、どこの国にも気の合う人、合わない人はいるものです。本当に当然のことで書くのも恥ずかしいくらいですが、気づくことが出来て良かったと思います。留学を通して、国際的な人間とは人種・国籍・言葉で区別せず、人の本質を見ることができると感じました。

⑥ 留学費用

奨学金を頂き、足りない部分は親から援助してもらいました。海外保険は大学指定のものに加入しました。

⑦ 留学先での住居

現地の寮は先述の通り、現地の大学を通して学生寮に申込みました。私の寮は Medicinaregatan 寮という大学の Johanneberg キャンパスから Door to Door で 15 分のところ です。部屋は 25 平米でゆとりがあり、シャワーやトイレは自室にありました。ベッドや本棚、クローゼットなどは備え付けであります。

キッチンと同じ階の人と共有で使っていましたが、冷蔵庫の中の具材などに関してキッチンメイトとトラブルがありました。またごみ捨てや IH 周りの掃除をきちんと行わない人がいてちょこちょこことストレスになることがあり、そういったストレスが嫌いな方は自室にキッチンのある寮をおすすめします。とはいえ、キッチンメイトとは一緒に夕食を食べたり相談相手になってもらったり、留学を通じて心の支えとなったのは確かです。

寮は入学許可をもらったと同時に申請を行ったほうがよいです。早めに選ばないと良い寮がなくなります。

⑧ 留学先での語学状況

スウェーデン人はスウェーデン語を話すのですが、ほとんどの人が流暢に英語を話します。大学院の授業もすべて英語でした。スウェーデン語が必要な場面に遭遇したら、スウェーデン人の友人に訳してもらっていました。

⑨ 単位認定、在学期間

JASSO の奨学金を受給したため、単位認定を行う予定です。在学期間は一年間延長します。

⑩ 就職活動

在学期間を一年延長するため、留学中は就職活動をしませんでした。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

大きな事件にまきこまれたり、病気にかかったりのトラブルはありませんでした。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

「楽しそうだから」「自分の世界を広げたいから」私はそんな漠然とした興味から始まり、実際に行ってみると想像以上の世界が待っていました。時間に余裕があるのなら、このようなチャンスはまたとないと思います。是非一歩踏み出して、自分の世界を広げてきてください。